

かもめ

作＝アントン・チェーホフ
英語台本＝トム・ストッパード／翻訳＝小川絵梨子
演出＝鈴木裕美

朝海ひかる 天宮良 伊勢佳世 伊東沙保 岡本あずさ 佐藤正宏 須賀貴匡
高田賢一 俵木藤汰 中島愛子 松井ショウキ 山崎秀樹 渡邊りょう

Written by
Anton Chekhov
In a new version by
Tom Stoppard

2019
THU 4/11 (木) → MON 4/29 (祝月)



チェーホフの傑作を全役、オーディションで。新国立劇場初の試み！



【芸術監督・翻訳】小川絵梨子



【演出】鈴木裕美



朝海ひかる



須賀貴匡



岡本あずさ



渡邊りょう

【チケット好評発売中 ☞ 新国立劇場ボックスオフィス 03-5352-9999】

写真・資料のご請求、取材のお問い合わせ

©新国立劇場 制作部演劇 広報担当 尾崎 悠

TEL: 03-5352-5738 / FAX: 03-5352-5709

E-mail: ozaki_y1019@nntt.jac.go.jp

©新国立劇場 制作部演劇 制作担当 茂木令子

TEL: 03-5352-5736



新国立劇場

<http://www.nntt.jac.go.jp>

◎作品について

毎シーズンに一本、全キャストをオーディションで選考、上演するという、小川絵梨子芸術監督が立ち上げた新たな企画の第一弾として、チェーホフ不朽の名作『かもめ』を上演します。作り手が新しい俳優と、俳優が新しい演出家と、劇場が新しい作り手たちと出会い、作品を創り上げていきます。演出には、これまで新国立劇場で数々の作品を創り出してきた鈴木裕美を迎え、6週間にも及んだオーディションを経て決定した13人の俳優たちと、小川絵梨子自身による新翻訳により、『かもめ』をお贈りします。

◎あらすじ

ソーリン家の湖畔の領地。女優のアルカージナ(朝海ひかる)と愛人の小説家トリゴーリン(須賀貴匡)が滞在している。アルカージナの息子トレープレフ(渡邊りょう)は恋人のニーナ(岡本あずさ)を主演にした芝居を上演するが、アルカージナは芝居の趣向を揶揄するばかり。トレープレフは憤慨しながら席を外すが、アルカージナは、ぜひとも女優になるべきだ、とニーナをトリゴーリンに引き合わせる。

ニーナは、トリゴーリンに名声への憧れを語り、徐々にトリゴーリンに惹かれていく。トレープレフは自殺未遂を引き起こし、さらにはトリゴーリンに決闘を申し込むが、取り合ってすらもらえない。モスクワへ戻ろうとするトリゴーリンに、ニーナは自分もモスクワに出て、女優になる決心をしたと告げ、二人は長いキスを交わすのだった。

2年後、トレープレフは気鋭の作家として注目を集めるようになっている一方で、ニーナはトリゴーリンと一緒にあったものの、やがて捨てられ、女優としても芽が出ず、今は地方を巡業している。トレープレフがひとり仕事しているところへ、ニーナが現れる。引き留めるトレープレフを振り切り、再び出て行くニーナ。絶望のなか、部屋の外へと出て行くトレープレフ。銃声が響く……。

全キャスト13名



◎芸術監督・翻訳 小川絵梨子からのメッセージ

「かもめ」のオーディションにご応募くださった方々、そして長期に渡るオーディションにご参加下さった方々に深く御礼申し上げます。劇場としての新しい試みに、多くの皆様からのご応募を頂きましたことを大変に有り難く、また励みに感じております。演出家の鈴木裕美さんが熟考に熟考を重ねて下さり、今回のキャストの方々にご出演頂けることとなりました。ご出演頂く方々にもまた今回はご出演頂くことが叶わなかった方々にも、こうして出会うことができましたことは劇場として大きな財産です。ご応募下さった皆様、こうして出会いを下さったこと、そして多大なるエネルギーと時間と想いを作品に向けて下さったことに、心より深く深く感謝申し上げます。

このフルオーディション企画は来年以降も続けて参ります。オーディションで作品を作っていくことの豊かさを実感するために邁進して参りますので、何卒、これからもよろしくお願い申し上げます。最後になりましたが、今回の作品を皆様にお届けできますことを、私自身もとても楽しみにしております。2019年4月公演「かもめ」にどうかご期待下さいませ。

◎演出 鈴木裕美からのメッセージ

応募総数3396名、6週間に渡るオーディションを終了し、「かもめ」全キャスト13名が決定いたしました。30年以上の私の演劇人生の中でも群を抜いて、大変得難い、ありがたい体験でした。誤解を恐れず正直に申し上げますと、「審査」をしたという感覚はありません。

1次の段階では、『「かもめ」は読んでいません』とおっしゃる方もありましたが、オーディションという状況にも関わらず、いや、もしかしたらその状況だからかもしれませんが、心が激しく動かされる素晴らしい演技を、数限りなく拝見しました。皆さんの演技から、私が読み落としていた戯曲の意味に気づかされることも数多くありました。その真摯で、誠実で、演劇へのひたむきな想いに溢れた演技に、「審査」という言葉で向き合うのは、とても不遜なことだと強く感じました。

この度の企画ではありがたいことに、その方にご出演いただくことでの経済的な効果は考慮に入れなくて良かったので、1次から最後まで、ただその時に素晴らしかった俳優さんたちに、もう一度お越し頂くということを繰り返し、決定に至りました。数えていませんでしたが、ある役は10次までであったそうです。全ての方の演技を拝見したのは、私とプロデューサーの二人だけですが、ただの一回も意見が割れたことはありませんでした。

最後の数人になってからのオーディションは、どの役もとても辛いものでした。「もうみんなでジャンケンで決めてくれて構わない」という冗談を口にしなければ、様々なシーンを繰り返し演じて頂く勇気が持てないほどでした。

18歳から70歳を超えた方まで、今回は戸籍上の性別も不問にしましたので、トランスジェンダーの方も、テレビでよくお目にかかる方も、失礼ながら全くお名前を存じ上げない方も、皆さま勇気を持って参加して下さいたことに、言葉では言い表せないくらい深く感謝しています。

体力的には疲労困憊でしたが、皆さまの演劇や「かもめ」への美しい想いをたくさん浴び、私も想いを強く、新たにさせて頂きました。

普通の稽古期間と同じくらい「かもめ」のことを考え続ける日々でしたので、明日からでも直ぐに稽古に入りたい心境ではありますが、一旦忘れて、また来年、誠実に粘り強く「かもめ」に取り組みたいと思います。どうぞご期待ください。

◎スタッフプロフィール

アントン・チェーホフ (Anton CHEKHOV)

ロシアの劇作家、小説家。モスクワ大学医学部を卒業、医師として働く。生活費を稼ぐため、短編ユーモア小説を書くが、その後文学的作品を執筆するようになる。1881年から戯曲の執筆を開始、87年に長編『イワーノフ』初演、89年の再演が高評を博し、96年初演の『かもめ』以降、99年『ワーニャ伯父さん』、1901年『三人姉妹』、04年『桜の園』を執筆、劇作家としての名声を確立した。

トム・ストッパード (Sir Tom STOPPARD)

1937年、チェコスロバキアのユダヤ系の家庭に生まれる。第二次世界大戦中、ナチスから逃れ、シンガポール、インドに移り住む。46年、イギリスに移住。17歳でジャーナリストとなり、報道記事、映画・演劇の批評を担当。また、ラジオドラマ等の脚本、戯曲を執筆する。66年、エジンバラ・フリンジ・フェスティバルで上演した『ローゼンクランツとギルデンスターンは死んだ』が大評判を呼び、翌67年、ロンドン・オールド・ヴィック劇場にて上演。同年、ブロードウェイにも進出し、トニー賞ベスト作品賞をはじめ、数々の賞を独占した。その後も知的ユーモアとウィットに富んだ数多くの作品を書き、イギリス演劇界にその地位を確立した。また『未来世紀ブラジル』や『太陽の帝国』など、映画の脚本も多数手掛け、幅広い方面で高い評価を得ている。90年『ローゼンクランツとギルデンスターンは死んだ』を映画化、自ら監督、ヴェネツィア国際映画祭金獅子賞を、99年『恋におちたシェイクスピア』でアカデミー賞オリジナル脚本賞を受賞している。そのほか主な戯曲に『ジャンパーズ』『茶番劇』『ザ・リアル・シング』『アルカディア』『コースト・オブ・ユートピア』『ロックンロール』『ハード・プロブレム』など。97年、英国王室よりナイト爵位を叙せられた。

小川絵梨子 (OGAWA Eriko)

1978年、東京生まれ。2004年、アクターズスタジオ大学院演出部卒業。06～07年、平成17年度文化庁新進芸術家海外派遣制度研修生。10年、サム・シェパード作『今は亡きヘンリー・モス』の翻訳で第3回小田島雄志・翻訳戯曲賞受賞。12年、『12人～奇跡の物語～』『夜の来訪者』『プライド』の演出で第19回読売演劇大賞優秀演出家賞、杉村春子賞受賞。14年『ピローマン』『帰郷・The Homecoming』『OPUS／作品』の演出で第48回紀伊國屋演劇賞個人賞、第16回千田是也賞、第21回読売演劇大賞優秀演出家賞を受賞。最近の演出作品に『スポケーンの左手』『RED』『夜想曲集』『ユビュ王』『CRIMES OF THE HEART 一心の罪』『The Beauty Queen of Leenane』『ファン・ホーム』『マクガワント・トリロジー』『出口なし』など。新国立劇場では『OPUS／作品』『星ノ数ホド』『マリアの首―幻に長崎を想う曲―』『1984』『スカイライト』の演出のほか、『ウィンズロウ・ボーイ』の翻訳も手がけている。18年9月より新国立劇場演劇芸術監督。

鈴木裕美 (SUZUKI Yumi)

1982年、日本女子大学在学中に「自転車キンクリート」を結成。「自転車キンクリートSTORE」を含むほとんどの公演に関わり、『OUT』『第17捕虜収容所』『法王庁の避妊法』『富士見町アパートメント』などを演出。現在は小劇場から大劇場、ストレートプレイ、ミュージカル、ダンスと多種多様なジャンルで精力的に活動中。2011年より個人ユニット「鈴木製作所」を立ち上げ、『ノミコムオンナ』を製作。最近の主な演出作品に『夜中に犬に起こった奇妙な事件』『アリス・イン・ワンダーランド』『サンセット大通り』『パパのデモクラシー』『スコット&ゼルダ』『フロッグとトード がま君とかえる君の春夏秋冬』『花より男子』『ブラック メリーポピンズ』『マクベス』『韓国版 花より男子』『蜘蛛女のキス』などがある。第35回紀伊國屋演劇賞個人賞、第8回・15回・18回読売演劇大賞優秀演出家賞、第10回仙田是也賞、第33回菊田一夫演劇賞、07年ミュージカル・ベストテン演出家賞、第61回芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。新国立劇場では、『たとえば野に咲く花のように』『エネミ』『ウィンズロウ・ボーイ』を演出。

◎出演者プロフィール

朝海ひかる(ASAMI Hikaru)・アルカージナ役

1991年、宝塚歌劇団に入団。'02年雪組男役トップスターに就任。'06年に退団。その後は舞台を中心に活躍。近年の主な出演作に、'18年ミュージカル『TOP HAT』(マシュー・ホワイト演出)、『黄昏』(鶴山仁演出)、『黒蜥蜴』(デヴィッド・ルヴォー演出)、'17年『私はだれでしょう』(栗山民也演出)、などがある。本年9月こまつ座第129回公演『日の浦姫物語』(鶴山仁演出)への出演が控えている。

天宮 良(AMAMIYA Ryo)・ドールン役

倉本聰脚本「昨日、悲別で」でデビューし、注目を浴びる。以降、テレビ、映画、舞台と幅広く活躍。1985年ゴールデンアロー賞演劇部門で新人賞受賞。演出の鈴木裕美氏とは、2006年『第32進海丸』の舞台で出会う。近年の主な舞台作品は『サド公爵夫人』『余命1ヶ月の花嫁』『家康と按針』『ブロードウェイから45秒』『のだ自慢』『おもしろい女』等に出演。新国立劇場では2003年『ピルグリム』以来、実に16年ぶりに出演。

伊勢佳世(ISE Kayo)・マーシャ役

劇団俳優座養成所を経て、2008年より前川知大主宰の劇団イキウメに所属。『太陽』『聖地 X』『関数ドミノ』『散歩する侵略者』など、ほぼすべての劇団公演に出演する。16年、同劇団を退団。近年の主な舞台出演作品に『マンザナ、わが町』『父と暮せば』『アンチゴーン』『CRIMES OF THE HEART-心の罪-』『令嬢ジュリー』『紙屋町さくらホテル』など。新国立劇場では、『マリアの首-幻に長崎を想う曲-』『OPUS／作品』に出演。

伊東沙保(ITO Saho)・ポリーナ役

早稲田大学卒業。在学中より活動を開始。主な出演作に、地点『三人姉妹』、チェルフィッチュ『フリータイム』『ホットペッパー、クーラー、そしてお別れの挨拶』、五反田団『迷子になるわ』、サンプル『ブリッジ』、ハイバイ『ハイバイ、もよおす』、モダンスイマーズ『悲しみよ、消えないでくれ』、木ノ下歌舞伎『心中天の網島』『摂州合邦辻』など。

岡本あずさ(OKAMOTO Azusa)・ニーナ役

2007年に雑誌『Seventeen』専属モデルとしてデビュー。2008年女優デビュー後はテレビドラマや映画、CMなど映像作品にも出演し幅広く活躍。これまでにドラマ『「勇者ヨシヒコ」シリーズ』『「植物男子ベランダー」シリーズ』『グッドパートナー 無敵の弁護士』、映画『センチメンタルヤスコ』などに出演。近年は舞台出演も多く『AZUMI 幕末編』『劇団た組「まゆをひそめて、僕を笑って」』『タクフェス第5弾「ひみつ」』などに出演。新国立劇場には初登場となる。

佐藤正宏(SATO Masahiro)・ソーリン役

山形県出身。1984年、喰始・柴田理恵・久本雅美らと『ワハハ本舗』を設立。2016年『ヘブンアーティスト』(東京都公認大道芸人)のライセンス取得。公園・学校・病院などで『紙芝居』の活動もしている。これまでの舞台出演『レ・ミゼラブル』『イーハトーボの劇列車』『おもしろい女』など。新国立劇場では『ピルグリム』『わが町』に出演。

須賀貴匡(SUGA Takamasa)・トリゴリン役

2002 年『仮面ライダー龍騎』に主演。NHK 連続テレビ小説『カーネーション』『マッサン』、映画『魁!!クロマティ高校 THE★MOVIE』主演、舞台『宝塚 BOYS』『この雨ふりやむとき』『プライド』『ART』『受取人不明 ADDRESS UNKNOWN』等に出演。2019 年、17 年ぶりに『仮面ライダー龍騎』の城戸真司役を演じ話題となる。仮面ライダージオウスピンオフ PRAT2『RIDER TIME 龍騎』が 3 月末ビデオパスにて独占配信決定。

俵木藤汰(TAWARAGI Touta)・シャムラーエフ役

新潟県出身。1985年早稲田大学在学中、劇団「木霊」に参加。95年より「ラッパ屋」に所属、中心男優として活躍。劇団公演以外にも、舞台、TVを中心に活動中。最近の主な出演作に【舞台】こまつ座『たいこどんどん』、ウォーキング・スタッフ『D51-651』、『お気に召すまま』、【TVドラマ】『半分、青い』『昭和元禄落語心中』(NHK)、『ドロ刑』『イノセンス』(NTV)、『リーガルV』(EX)など多数。また新国立劇場には初登場となる。

松井ショウキ(MATSUI Syouki)・メドヴェージェンコ役

劇団青年座研究所卒業。以降、舞台のほか、ドラマ、映画、CMなどにも活動の場を広げ、多くの作品に出演。主な出演作品に舞台『友達が全員死んだ』『愚か者。たがらもの』、映画『こち亀』『清須会議』『るろうに剣心 伝説の最期』『秘密』『貞子VS伽椰子』『シン・ゴジラ』『真田十勇士』、ドラマ『曲げられない女』『らんま1/2』『とげ』『精霊の守り人 最終章』『dele』『ハケン占い師アタル』など。

渡邊りょう(WATANABE Ryo)・コンスタンティン役

2008 年、tpt 『ミザントロップ』で初舞台。その後、DULL-COLORED POP、劇団チョコレートケーキなどに出演。2014 年～2018 年まで、劇団『悪い芝居』に所属。2016 年に出演した DULL-COLORED POP『演劇』で佐藤佐吉賞優秀助演男優賞を受賞。近年の主な舞台作品に、第 26 回読売演劇大賞優秀作品賞を受賞した『遺産』、『ラスト・ナイト・エンド・ファースト・モーニング』『毘々』『メロメロたち』など。

◎公演概要

【タイトル】 かもめ (The Seagull)

【スタッフ】

作: アントン・チェーホフ 英語台本: トム・ストッパード

翻訳: 小川絵梨子 演出: 鈴木裕美

美術: 乗峯雅寛 / 照明: 沢田祐二 / 音響: 長野朋美 / 衣裳: 黒須はな子

ヘアメイク: 宮内宏明 / 演出助手: 伊達紀行 / 舞台監督: 村田 明

芸術監督 小川絵梨子

主催 新国立劇場

【キャスト】

朝海ひかる 天宮 良 伊勢佳世 伊東沙保 岡本あずさ

佐藤正宏 須賀貴匡 高田賢一 俵木藤汰 中島愛子

松井ショウキ 山崎秀樹 渡邊りょう

【会場】 新国立劇場 小劇場 (京王新線 新宿駅より1駅、「初台駅」中央口直結)

【公演日程】 2019年4月11日(木)～4月29日(月・祝)

【料金】 A席6,480円、B席3,240円、Z席1,620円(税込)

【チケット申し込み・お問い合わせ】※一般発売: 2月16日(土)10:00～

新国立劇場ボックスオフィス TEL: 03-5352-9999 (10:00～18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <http://pia.jp/nntt/>

* **Z席1,620円** 公演当日10時よりボックスオフィス窓口で販売。1人1枚。電話予約不可。* **当日学生割引** 公演当日残席がある場合、Z席を除く全ての席種について50%割引にて販売。要学生証。電話予約不可。* 新国立劇場では、高齢者割引(65歳以上5%)、障害者割引(20%)、学生割引(5%)、ジュニア割引(中学生以下20%)など各種の割引サービスをご用意しています。